

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こども発達ルームらんらん				公表日	令和 7 年 4 月 20 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10 (100%)		少人数制をとっているため、適切な広さがある。 人数が多くなると指導訓練室だけでは十分でない時があるが、サンルームを併用したりとのびのびと過ごせる工夫をしている。 集団・個別療育併せて1日10人で実施しており、密にならないようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10 (100%)		ほぼマンツーマンで支援できている。 支援中の送迎で、職員が席を外す時に、支援が手薄になると感じることもあるが、声を掛け合い子どもたちがゆったりと過ごせるよう配慮している。 やむを得ず職員数が少ない日は、環境構成、人員の配置場所に工夫している。 利用児童が2人以上の時は、職員が必ず2人、食事の時間も必ずテーブルごとに職員がつく体制がとられている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9 (90%)	1 (10%)	スケジュールや視覚支援のマークを用い、わかりやすい環境となっている。 視覚的刺激が少なく、わかりやすく動きやすい動線を確保できる環境となっている。 視覚から情報が入るように工夫されている。 鍵の2重・3重ロックも行われている。	外部から屋内に入る場合は、階段があるため完全なバリアフリーにはできていない。家屋は法人所有のものではないため、これ以上の工事は現段階では難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10 (100%)		日々、清掃を行い心地よく過ごせる環境整備を心がけている。 毎日掃除・アルコール消毒が行われている。 活動する部屋は段差をなくして安全になっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10 (100%)		お昼寝や体調不良時には、別室で過ごすことができるような環境設定を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10 (100%)		月の会議の中で目標を決め、会議録を回覧したり振替を行っている。 毎朝の朝礼、定期的な会議にて、情報共有や支援の振り返りを行っている。 朝礼だけでなく、日々連絡・相談・改善に向けた実施が行われている。 書面にすることで、全職員へ周知している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10 (100%)		1年に1度、保護者さまへアンケートのご協力をいただき、改善に努めるように努力している。 年に1度の評価表を行っている。また、いただいたご意見を基に改善していく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10 (100%)		朝礼や毎月の定例会議にて、職員の意見からの意見を出してもらい、働きやすい職場となるように心がけている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		10 (100%)	実施していない。 福岡県庁による運営指導。	今のところ外部評価を行う予定はないが、いつ評価を受けても良いように準備をしている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10 (100%)		研修が年間で決められており、学習する機会がある。 定期的に研修が行われ、聞くだけでなく、訓練を行ったり、考える時間が設けられている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10 (100%)		5領域を網羅した支援プログラムを作りこみ、公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10 (100%)		アセスメントをご記入いただくとともに、日々のご利用の中で保護者さまからお話を伺い、支援計画に反映している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10 (100%)		カンファレンスの中でモニタリングを行い、個別支援計画の原案の作成を行っている。 モニタリング会議後、記録を全体で回覧している。	

14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10 (100%)		個別支援計画作成完了時に全体へ周知し、モニタリング後の記録を全職員に回覧している。 定期的に計画内容を確認しながら支援にあたっている。	
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10 (100%)		構音検査については実施している。	今後は発達全体についての把握につとめていく。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10 (100%)		個別支援計画に基づき具体的な支援内容を設定し、日々の療育支援を行っている。 各項目を記載した個別支援計画を作成し、書面でお見せしながらお伝え、ご説明している。 アセスメントをしながら支援内容を設定している。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10 (100%)		会議を行い、週のプログラムの設定を行っている。 定期的に会議を実施し、チームで検討している。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10 (100%)		その日の児童に合わせて、プログラムを組んでいる。 季節の行事を盛り込んだ活動を計画したり、日ごろの利用者さまの様子を見て、新たな活動を計画・実施している。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10 (100%)		保護者の方と相談（要望を聞き）、個別・集団と活動の計画を行っている。 保護者さまのご希望、家庭内や園での様子を反映させた計画を作成している。 ご利用時にそのお子様にあった療育をご提案させていただくとともに、日々のご様子・成長に合わせて、計画作成している。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10 (100%)		朝礼時に、ねらいや気を付けるべきことを伝え、支援を行っている。 朝礼にて、活動・配置・環境を周知している。 朝礼にて、その日の活動内容、流れを伝達している。 日誌に内容を記録することで、全ての職員へ周知している。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9 (90%)	1 (10%)	必ず毎日行うことはできないが、情報共有しなればならないことなどが発生した場合は、共有するようにしている。 終了後に職員間での振り返りや伝達を行っている。個別・集団どちらもご利用の方の場合、次回ご利用につながるよう伝達している。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10 (100%)		徹底することはできないこともあるが、改善に努めている。 集団は連絡帳、個別は療育記録をとり、いつでも全職員が見る事ができるして支援に反映している。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10 (100%)		カンファレンスの中でモニタリングを行い、個別支援計画の原案の作成を行っている。 モニタリング会議後、記録を全体で回覧している。 最低6カ月に1回は見直し、支援計画の見直しを行い、ご説明を行っている。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10 (100%)		日々のご利用状況・成長をしっかりと把握しているものが参加するとともに、会議前には再度職員からの情報収集を行いまとめている。	
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10 (100%)		くれよんクラブやいちご学級に通われている方の利用もあり、連携した支援を行っている。 保育園・幼稚園、各市のご担当者様と情報共有を行い、ご利用者さまがより生活しやすいよう連携し、支援に反映している。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10 (100%)		これから登園が始まる利用児童については、園への情報提供を行い、スムーズに登園できるように協力している。 送迎時だけでなく、保護者さまからの了承を得て、お電話や直接お話しをさせていただく機会をいただき、情報共有を行っている。	

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10 (100%)		サポートブックの作成や特別支援学校主催の情報交換会へ参加し、情報共有を行っている。 保護者さまからのご依頼をいただいた方は、情報提供を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	10 (100%)		現在のところ、そのような連携はない。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6 (60%)	4 (40%)	地域の園に通園している児童については、障がいがない児童との交流が行えている。 園との積極的な交流は行っていない。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10 (100%)		送迎時の保護者さまとの情報提供や連絡帳を通して行っている。 連絡帳や送迎時に利用時の様子や家庭内・園での様子について情報共有している。 連絡帳だけでなく、送迎時に直接保護者さまへお伝えし、個別療育時には活動時にお伝えするとともに、LINEにてお伝えさせていただいている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10 (100%)		気になる様子や困り感を全体で共有し、対応の検討を行っている。 ご利用時にお子さまへの接し方、ことばの伝え方などについてお伝えしている。		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10 (100%)		契約時に十分な説明の時間を設けて丁寧に対応している。 利用者さまのご負担がある場合は、請求書をお渡しする際にもご説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10 (100%)		5領域を網羅した個別支援計画を作成し、保護者さまへ説明の時間をもらい、書面にて説明し、同意のサインをもらっている。 5領域を網羅した個別支援計画を作成し、保護者さまへご説明し、質問や追加事項をお伺いし、同意を得て支援に反映している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10 (100%)		5領域を網羅した個別支援計画を作成し、保護者さまへ説明の時間をもらい、書面にて説明し、同意のサインをもらっている。 5領域を網羅した個別支援計画を作成し、保護者さまへご説明し、質問や追加事項をお伺いし、同意を得て支援に反映している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10 (100%)		相談があった場合は、対応を行っている。 個別支援計画の説明時には面談の時間をもらうので、その中でお悩みを伺うようにしている。 日ごろから相談しやすい場を作ることを大切にしながら、保護者さまにお悩みが無いが伺っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		10 (100%)	保護者さまからのニーズが少なく、実施機会がありません。	今後必要に応じて実施を検討します。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10 (100%)		事業所内で相談支援体制を整備している。		
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10 (100%)		保健だより(こあらんらん)を毎月発行し、感染症の流行状況や感染時の対応、心理士の子育て支援のコラムを設けて発行している。 月に1回事業所の会報誌を発行し、その中で活動予定や子育てに関する情報を発信している。		

非常時等の対応	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10 (100%)		鍵付きのキャビネットを設けて管理するほか、名前が書かれた書類については、シュレッダーをかけて処分するようにしている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10 (100%)		その方にとって伝わりやすい方法でお伝えしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		10 (100%)	地域の造園屋さんに来ていただき、児童らと一緒に花壇の植替え作業などを一緒に行っている。	地域に開かれた事業所であることは大切だと思うが、地域住民を招待するなどの場合、不特定の人が来所することは安全面を考えると抵抗がある。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10 (100%)		研修を行い、日々の療育の中で、感染予防に取り組んでいる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10 (100%)		避難訓練や通報訓練を定期的に行っている。年に数回実施しているが、もう少し頻度を増やすといいと思う。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10 (100%)		契約時に日ごろ飲んでのお薬などの情報提供の協力をお願いし、確認している。フェイスシートや救急隊への情報提供シートにて把握している。受診についても確認するようにしている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10 (100%)		イベント時のお菓子などはアレルギーなどには充分注意して提供している。食物アレルギーをお持ちの方に対しては、どれくらいの対応が必要かを確認をとっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10 (100%)		定期的に危険箇所などの確認や、避難訓練、BCPの訓練・実施などを計画的に実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10 (100%)		年度初めに保護者さまへ周知している。	年度途中に利用が始まったご利用者さまには、完全に周知できているかが未確認のため、再度みなさまへ周知する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10 (100%)		発生した場合は、再発防止のために全職員へ共有している。事例が発生した場合は、報告書を作成し、全員に周知している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10 (100%)		虐待防止委員会や虐待防止研修を行い、日ごろの支援内容の振り返りの機会を作るようにしている。定期的な研修を行うとともに、日ごろから職員間で話し合いを行っている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		10 (100%)	身体拘束適正化委員会を開催しているが、現在のマンツーマンに近い支援体制の中では、身体拘束をする必要が無く、保護者さまへの説明や個別支援計画への記載は行っていない。	一定の条件が揃えば、必要最低限の身体拘束を行うことはやむを得ないこととされているが、弊所は手厚い職員体制をとっているため、その必要はないと考えている。また、現段階で身体拘束を検討しなければならないような場面は見られていない。弊所では全職員が「身体拘束はしない」という共通認識を持ち支援している。	